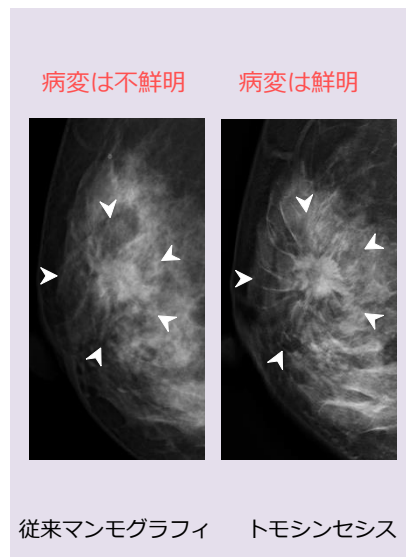
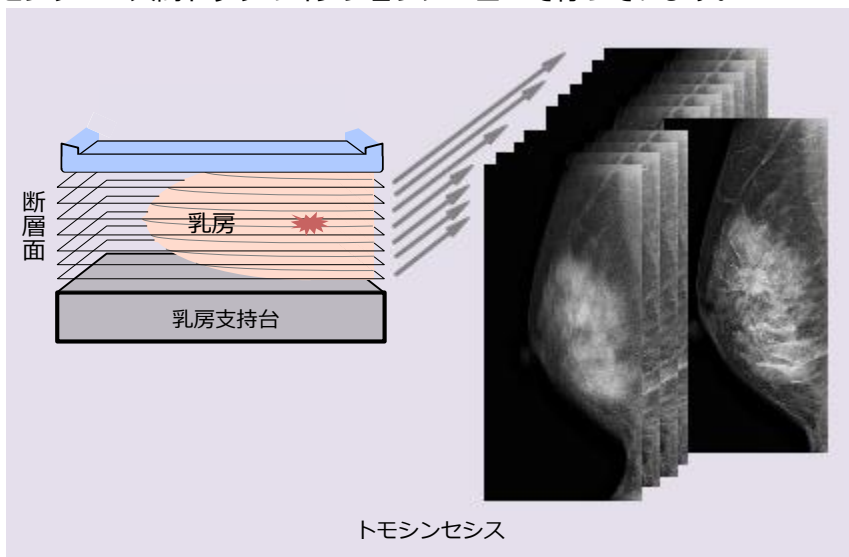


乳がん 高度検診・治療センター NEW-す NO.52

2018.9

“乳房トモシンセシス（3Dマンモグラフィ） が新しくなり、被ばく線量が減りました”

乳房トモシンセシス（正式名称：デジタルプレストモシンセシス）は3Dマンモグラフィとも呼ばれ、マンモグラフィの一種です。従来のマンモグラフィは1回の乳房X線撮影で1枚の画像を表示するので、乳腺と病変が重なって描出されていました。しかし、乳房トモシンセシスは1回の乳房X線撮影によって、1mm間隔の断層画像を乳房全体で数十枚表示するので、乳腺と病変の重なりが少なくなり、病変をより鮮明に描出することができます。そして、最近話題になっている「高濃度乳房」における乳がん発見率が向上するという報告もあります。当院での乳房トモシンセシスの撮影は、精密検査で病変を詳しく撮影する場合と健診センター・人間ドックのオプションメニューで行っています。



トモシンセシス1曝射の平均乳腺線量（ミリグレイ*）

精密検査		健診センター・人間ドック	
旧	新	旧	新
2.1	1.2	0.9	0.7

*：グレイ（Gy）は被ばく線量を表す臓器吸収線量の単位であり、ミリグレイ（mGy）はグレイの1/1000

当院では乳房トモシンセシス装置を平成26年に導入しましたが、今年から新しくなりました。外観は同じですが、新たに開発された逐次近似超解像再構成処理（画像を作成する新処理方法）を搭載したソフトウェアを導入することで、画質を劣化させることなく被ばく線量を2～4割低減することができるようになりました。これまで、従来のマンモグラフィと乳房トモシンセシスは被ばく線量が少なかったのですが、新ソフトウェアの導入でさらに少なくなりました。



市立貝塚病院
TEL：072-422-5865

検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師
矢竹秀穂